



Assumption

聖母被昇天學院 學院報

Kindergarten
Primary School
Junior & Senior High School



No.19

2013.6.28

幼稚園

お家の方やお友達とふれあい 子どもたちの笑顔がいっぱい!!



ふれあいスポーツデー
2013年5月26日(日)

青空の下、ゴールめざして
よいい、ドン
ダンスや演技もがんばったよ!

今年も『みんなで楽しく体をうごかそう!』をテーマに、ふれあいスポーツデーが行われました。当日は朝からよいお天気で、家族に見守られた園児たちは元気いっぱい。それぞれの学年が親子競技に参加し、仲良

くがんばりました。また、演技でも毎日練習してきた成果を存分に発揮することができました。

まずは全員で神様にお祈りをし「たけのこ体操」と「あひるのダンス」からスタートです。この日のために毎日しっかりと体操とダンスを練習した園児たち。どの顔も満面の笑みでゴキゲンです。

「なかよし親子で、よいいドン!!」という親子競技に出場した年少児は、サイコロをふって動物に変身。お父さまやお母さまにおんぶや抱っこしてもらい、元気にゴールしました。

年中児は一枚の大きなパンツを履いて走る、定番の「デカパンレース」に挑戦です。勢い余って駆け出すのは園児ではなくお父さま方です。子どもたちはでっかいパンツに首まで包まれ大喜び。あちこちで子どもたちの笑顔がはじけます。

そして、ふれあいスポーツデー3回目の貫禄をみせる年長児は、パラバルーン「Joy」の演技を披露。みんなの息もピッタリで、ラストは大きな大きなバルーンが膨らみました。そして、クラス対抗親子リレーでは、お家の方にバトンを渡すため、一生懸命走りました。

当日、応援に来ていた未就園児はかけついで、小・中学生も徒競走で参加し、楽しい一日を過ごしました。みなさん、お疲れさまでした。また一緒に遊ぼうね!

小学校

学年を超えて、世界を超えて、 友だちがいっぱいできた!



フィリピン研修生との交流会
2013年4月17日(水)

英語が通じた喜びや
分かるうれしさを実感

アサンプシオン姉妹校である、フィリピンのサンロレンソ校とアンテイポロ校から10名の中高生が来校し、小学児童と交流をしました。この日は、日頃の英語学習の成果を試せる絶好のチャンスでもあります。

たとえば、1年生は覚えたばかりの英語を交えてゲームをしたり、日本の遊び「だるま落とし」や「けん玉」をしたりして楽しい時間を過ごしました。

2年生はヴァイオリンやフルートの演奏をフィリピンのお姉さんに披露。互いに自己紹介しながら交流を深めました。

英語で伝言ゲームをした5年生

は「少しでも自分の英語が通じると本当にうれしい。明日から英語の勉強をもっとがんばる」と話しました。

姉妹学級交流会
2013年5月16日(木)

みんなで仲良く遊び
お弁当を食べました。

学校生活の中で姉妹のような思いやりを育てている本校。高学年は低学年の子たちをとててもかわいがっています。そして、ASA(児童会)役員主催の『姉妹学級交流会』は、全児童が固い信頼関係を築く大きなイベントです。

1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生がペアになり、お昼ご飯と一緒に食べて、なかよしタイムには全校児童で「ふえおに」をして楽しく過ごしました。子どもたちはこうしたふれあいの中で、人を思いやる優しい気持ちや育まれ、互いに「かけがえのないひとり」として、自分が愛されていることに気づき、自らの役割を見つけていくのです。



中学校
高等学校

体験授業や体育祭… 生徒一人ひとりが個性を發揮



「プリザーブドフラワー」講習会
2013年5月15日(水)

ユニークなアレンジがいつばい
気分はフラワーデザイナー？

中学校2年の技術・家庭科の授業に、ユニバーサルデザイナーズ協会より、3人の先生方が来校されました。前週、ピンクのスプレーカーネーションを着色して、プリザーブドフラワー(専用の保存液を用いて、長時間鑑賞できるよう加工した花)にしましたが、当日は、その花のアレンジメントに挑戦。白い花台にバランス良く入れていく生徒たちの顔は、真剣そのものです。

「三角形を意識して、高さも考えてください」講師の先生方からは適切なアドバイスをあり、ピンセットはさみを駆使して大奮闘。意欲的に創作活動に取り組み、授業の終わりには、きれいにラッピングされた個性的なアレンジメントフラワーが完成しました。

今年は例年より早い梅雨入りで天候が心配されていましたが、当日は晴天に恵まれ、各クラス一致団結して競技に取り組みました。

クラス・学年の結束力を高めることを目標に、4月下旬から生徒会執行部と体育祭実行委員会が準備を続けてきました。各クラス・学年のリーダーが中心となり、運動場や聖堂前芝生で、応援合戦や大縄飛び、クラス全脚の練習に励みました。時にはうまくできずに、もめることもあったようですが、工夫しながら練習を重ねる中で、一つずつ自分たちで問題解決。全種目が終わる頃、生徒たちの顔はみな、全力を出し切った満足感でいっぱい。閉会式では互いの健闘を心から讃え合いました。

ご参観いただいた保護者のみなさま、どうもありがとうございました。



体育祭「Compassion」
2013年5月31日(金)

青空のもと、
はじける笑顔が駆け抜ける!

これからの学院イベントスケジュール

	幼稚園	小学校	中学校高等学校
6月	6月28日(金)・29日(土) 年長お泊まり保育	6月26日(水)～28日(金) 小学4年自然教室	6月29日(土) 合唱コンクール
7月	7月13日(土) 夏祭り ／ハッピー★サタデー(未就園児対象) 7月22日(月) 年中デーキャンプ	7月6日(土) わくわくサタデー 7月15日(月)～18日(木) 小学5年自然教室 7月16日(火)～18日(木) 小学3年自然教室 7月26日(金) 入試説明会・体験入学 7月29日(月)～31日(水) イングリッシュサマースクール(1～6年生)	7月19日(金) 高校1年・2年校内進学説明会 7月27日(土) オープンスクール 7月27日(土)・28日(日) 箕面まつりボランティア 7月27日(土)～8月9日(金) フィリピン研修
8月	8月15日(木) 8月24日(土) ハッピー★サタデー(未就園児対象)	聖母被昇天祭	
9月	9月1日(日) 入園説明会／体験保育	9月8日(日) 入試説明会 9月22日(日) 運動会 9月27日(金) レシテーションコンテスト	9月4日(水) 英語スピーチコンテスト 9月5日(木) 学年保護者会・保護者対象講演会 9月20日(金)・21日(土) 学院祭 9月27日(金) 全校校外学習 9月27日(金)～29日(日) 中学2年語学研修
10月	10月12日(土) 運動会 10月17日(木) 年少親子遠足 10月22日(火) お芋掘り	10月1日(火)・5日(土) 入学試験 10月9日(水)～11日(金) 小学6年修学旅行 10月17日(木)・18日(金) 小学2年宿泊体験	10月18日(金) 中学球技大会 10月19日(土) 学校説明会・入試説明会 10月21日(月) 高校球技大会
	10月26日(土) 10月30日(水) ロザリオの MARIAさま行列	アサンプション・チャリティ・デー	
11月	11月15日(金) 七五三	11月8日(金) 死者の月祈りの集い 11月16日(土) 七五三のお祝い／わくわくサタデー 11月23日(土) 学習発表会	11月7日(木) 追悼ミサ 11月9日(土) 西日本フランス語コンクール 11月9日(土) 中学校受験プレテスト／高等学校入試説明会 11月12日(火)～15日(金) 中学3年修学旅行



2013年4月

国際交流・外国語センター開設

～さらに強化される聖母被昇天学院の外国語(英語・フランス語)教育～



2012年フランス研修旅行

世界の人たちとの交流で 国際感覚を身につけ 社会に貢献できる女性を育成

外国語 国際理解教育を 着実にレベルアップ

聖母被昇天学院では、創立当初より小学校1年から英語、高校1年ではフランス語を必修とするなど、外国語教育と国際理解教育に力を入れていきます。2013年度、こうした外国語教育をさらに進化させ、生きた語学力を身につけ、国際社会での貢献をめざすことを目的に『国際交流・外国語センター』を開設。センター長に就任した穴吹将彦教諭と、坂本清美教諭が中心になって運営にあたっています。

「現在、小学校の英語教育はネイティブを含む英語科教員が、チームティーチングで正しい発音やリズムを心がけ、楽しい雰囲気の中でコミュニケーション能力を育成。また、中学校高等学校では、検定試験や模擬試験対策にもつながるよう、習熟度別クラスで大学受験に対応した学力の伸長を図っています。更に、小中高と一貫したカリキュラムを作って意識して学習させることで、児童・生徒の英語力をレベルアップできるとともに、小学生からの学習が中学校高等学校で活きてきます。もちろん、英語だけではなく、洋画や音楽からフランス語にも興味を持つ生徒は多く、語学を学べばもつと世界が広がり、視野も広がることを教えたいのです。その大前提となるのは、English for Peace(平和のための英語教育)と、社会で貢献できる女性を育てること。世界34ヶ国に広がるアサンブション・ネットワークをおおいに活用していきます」と中学校高等学校の平沢真人校長。

「海外留学、あるいは外国語を学びたい学生を支援する国際交流センターを設置する大学はありますが、小中高一貫体制で専門機関が設けられるのは、伝統的な外国語教育の素地がある本校ならではの取り組みです。特に海外留学に関しては、今まで教員が個別に対応していましたが、今後は国際交流・外国語センターが情報提供または相談の窓口となって組織的に行っていきます」

一人ひとりの夢や目標を 国際交流・外国語センターが 後押し

「今年度の目標は、個人差の大きい英検やTOEIC®の数値目標を学年ごとに設定し、スコアの底上げを図ることです。とくに英検は6年生の約60%が4級以上を取得し、中学校高等学校では英検に加えてTOEIC®もあわせて続けていきます。また、小学校4年以上では『レシテーション(暗唱)コンテスト』を、中学生は『スピーチコンテスト』を開催。いずれも全員参加で、スピーチコンテストの中学部の優秀者は学校代表として『高円宮杯弁論大会』など校外のコンテストに出場しています。こうした外部のコンテストへの積極的な参加を促し、大学(外国語学部)進学をサポート体制を強化していきます。放課後の

世界に広がる Assumption

学院の母胎である「聖母被昇天修道会」は、世界34ヶ国に姉妹校、教育団体を広げ、約5万人が同じ理念のもとに学んでいます。

ヨーロッパ

- ・フランス(本部)
- ・ベルギー
- ・デンマーク
- ・スウェーデン
- ・イギリス
- ・イタリア
- ・スペイン

アフリカ

- ・リトアニア
- ・スコットランド
- ・コートジボアール
- ・ブルキナファソ
- ・ニジェール
- ・トーゴ
- ・ベナン

アジア

- ・チャド
- ・カメルーン
- ・ルワンダ
- ・タンザニア
- ・ケニア
- ・コンゴ
- ・アメリカ
- ・アメリカ合衆国

- ・メキシコ
- ・グアテマラ
- ・エル・サルヴァドル
- ・ニカラグア
- ・キューバ
- ・エクアドル
- ・ブラジル
- ・アルゼンチン
- ・チリ

アジア

- ・フィリピン
- ・インド
- ・タイ
- ・ベトナム
- ・日本





2013年フィリピン研修生来日



2012年フィリピン研修旅行

英語学習体制もしっかり整え、2014年度には小中高そろってのアメリカ研修旅行を企画していきます(穴吹)

ご自身も高校時代、1年間のアメリカ留学を体験し、生きた英語、使える英語の大切さを実感したそうです。

「本学院では、アサンプションの国際交流プログラムで、今までオーストラリアやフランス、フィリピンなどへの海外研修に行っていますが、小学生も含めた縦割りで行くのは初の試み。しかも低年齢であればあるほど、いろいろな経験ができると思います。ただし、全員が行けるわけではないので、校内では視聴覚教室のスクリーンプロジェクトを利用し、海外姉妹校の子どもたちと交流する授業や、ゲームなどを通して小中高一緒に生の英語を学ぶイベントを企画し、英語に興味を持たせるよう導きます。また、フィリピンやフランスの姉妹校から、毎年来日する留学生との交流の場も今まで以上に活性化させ、将来的には交換留学をも目指しながら、個人留学の情報の整理とサポートに積極的に取り組んでいきます(穴吹)

現在は、中学校高等学校において、希望者を対象に夏休みの2週間、フィリピン研修旅行を実施。

現地のアサンプションを訪問し、激しい貧富の差、日本とは全く異なる国外情勢を実際に見て感じたり、同じ理念の教育を受けている同世代の交流を通じて視野や見聞を広げたりしています。

「4月13〜27日、フィリピンの姉妹校2校より、研修生10名と先生2名が来日し、在校生のホストシスターとともに授業を受け、小学校や幼稚園との交流や日本文化体験(茶道・華道・書道)などを行いました。毎年人気のフィリピン研修旅行ですが、今年はとくに20名もの応募があり、関心の高さがうかがえました。根底に流れているのが、「自分にできることは何かを考え、使命を果たしたい」という思い。生徒たちは、訪れる先々でアサンプションのシスターや姉妹校の生徒、ホストファミリーから無償の愛を受けて自分を見つめ直し、世界に目を向けるきっかけにすることをしよう(平沢校長)

フランス語を学び 聖母被昇天学院の 源泉にふれるサポートも

高校1年から必修となるフランス語に関しては、高校2年で全員がフランス語検定に挑戦し、校内外でスピーチコンテストに参

加。高校生を対象とした「西日本フランス語コンクール」は毎年、本校主催で開催されます。

「日本語を教えているフランスの高校と、フランス語を教えている日本の高校の交流を目的としたネットワーク『コリブリ(COLIBRI)』へも加盟しており、今後フランスとの交換留学を希望する学生を募集しています。本校の母胎がパリにあるので、学校のルーツを知るためにも全生徒に呼びかけ、フランスの留学生らと積極的に交流していく予定です(穴吹)

児童や生徒だけでなく保護者の方も気軽に国際交流・外国語センターにお立ち寄りください。



「本校の国際交流や外国語教育は、世界に貢献する使命感を持った女性を育てるための一つの策として考えています。たとえば、フィリピン研修旅行では貧富の差が激しく、不安定な国情のなかで学ぶ子どもたちと接することで、恵まれた環境の中で、甘えがちになっていた自分を見直し、視野を広げるきっかけにしてほしいです」



中学校高等学校では、毎年4月にフィリピンの姉妹校から生徒たちが来日し、夏休みには本校の生徒もフィリピンを訪問。自国の名産や心温まる手作りの品などを交換し合い、生活習慣や文化、歴史を学ぶなかで、互いに観光ではできない貴重な体験をしている。



国際交流・外国語センターには、小中高を通じて実施された、さまざまな国際交流プログラムの資料が設置され、いつでも閲覧できるようになっている。本校を訪れたフィリピンやフランスの留学生からの手紙も並ぶ。

国際交流 の 思い出

教育的活動を通して
現するために働くのです。

Sr.マリ・ルーズ・マン
(Sr.ドミニク)

11年ぶりに大阪に戻ってきました。聖母被昇天の
児童や生徒は明るくて賑やかであの頃のままだす



profile Sr.マリ・ルーズ・マン

1932年、ベルギーで生まれ、25歳で来日。現在、教会の仕事に携わりながら、聖母被昇天学院中学校高等学校で、フランス語を教える。キリスト教の教えに基づき、未来を担っていく若者たちが、使命を発見し、責任を果たすことのできる人となるように働いている。

学生時代、どうであったかより
どんな大人に成長するかが大切

ベルギーのAssumptionを卒業し、25歳の時に来日。今年8月で55年目になります。日本校では43年間、フランス語と宗教を教えていました。

その後、東京へ移り、今年11年ぶりに帰ってきました。現在はフランス語部の生徒と関わっています。生徒たちはみな「シスター、シスター」と気軽に話しかけてくれるし、いつも明るくてかわいいです。保護者には卒業生もお

り、久しぶりに会ってもお互いすぐにあの頃に戻ります。

生徒たちとの思い出を語ると

尽きません。学生時代は少々問題があっても今ではりっぱなお母さんになっていきます。たとえば東日本震災の時に、一時、避難所になった息子さんの学校に約300人の食事を作り、届けた人がいます。子どもは親の背中を見て育つと言いますが、一時、子育てに迷いがあつた彼女も子どもに人としてあるべき姿を見せたはずです。

また、中学時代、勉強が苦手だ

った生徒たちで、高校1年からスタートしたフランス語に興味を持ち、友だちに教えてあげられるほど上達した人もいます。友だちから感謝される喜びを知り、心身ともに大きく成長できたのです。

中学の時、高齢者のための募金活動で「高齢者のために頑張らなきゃいけないのかな」と口走った生徒がいました。何か深い悩みを抱えていたのかもしれない。私はその言葉を戒めず「あなたの心は口ほどに悪くないのは分かっているのよ」と言いました。後に彼女は「シスターと出会わなければ、私の人生は違ったものになったでしょう」と言い、今では率先してボランティア活動をしています。

愛されて育つた子どもは
人を愛せる大人になる

こんなこともありました。阪神淡路大震災の1年後です。ある生徒の作文に「この日は自分にとってすばらしい日だった」と綴られていて驚いたのですが、読んでみると「家は半壊だったけれど、地震の時に、お父さんは覆い被さったテレビの下から這い上がり、真っ先に私の部屋に駆けつけてくれた。その時、私は父親に深く愛されていることを知り、一生忘れられない、すば



「私にとって聖母被昇天の卒業生は、我が子と同じ。全国各地どこでも卒業生に会うとみんなは学生時代のあの頃に戻ります」

らしい日になりました。わたしもお父さんのような人になりたい」と書いてありました。
「愛された子は自分も人を愛せる大人になる。まさに創立者聖マリ・ウージェニーの言葉そのものだと思います。
「今度、私より頭のいい妹が、聖母被昇天に入学するので楽しみにしててくださいね」といじける生徒に「あなただってすばらしい女性ですよ」と言ったこともあります。家ではよくできる妹さんと比較されていたのでしょう。しかし、ある朝私に「家に誰もいない時、お父さんがゲガをしたので手当てをしてあげるとすごく喜んでくれたの」と報告にきました。父親の役に立てたことがよほどうれしかったのでしょう。子どもたちは大人には気づかない様々な悩みを抱えているので、私はいつも温かく寄り添ってあげたいと思っています。

私たちに託された使命は 神が望む社会を实

Sr.マリア・コラレス

苦しみを知る人は
他者の苦しみにも共感できる

1936年にスペインで生まれ、23歳の時にキリストを布教するため来日しました。当時、聖母被昇天にはまだ小学校しかなく、私はカタコトの日本語で宗教を教えながら、小学校3年の教室と一緒に国語を習うという毎日。その後、香川県高松市や淡路島を経て、箕面に戻ったのは1986年。この間、キリストのすばらしい教えを広めるために働きました。しかし、人生最大のエポック

となったのは、1989年に「釜ヶ崎」と呼ばれる日雇い労働者の町がある西成修道院へ移った時。そこで出会った人たちが、私のキリストに対する信仰を根本から覆してくれたのです。

西成修道院では毎週、路上生活を強いられている方々を訪れ、夜回りに参加していますが、ある夜、いつも同じ場所にリヤカーを止めている顔見知りの人が寝ていたので、黙っておにぎりだけ置いて帰りました。翌週「おにぎり食べた？」と聞いたら、「いいえ、誰かが持っていたのでしょ

でもその人のお腹が大きくなったのだからいいですよ」と言うのです。

まさにこれこそ「人の命をもっとも大切にしろ」という聖書の教えそのもの。苦しんでいる人は他の人の苦しみにも共感できるのでしよう。その時、まばゆいほどの福音が私の目の前で輝きました。

生徒一人ひとりが 社会に関心を持って

もう一人は、日雇い労働者支援を行っている方でした。彼は労働者の雇用や生活環境の改善を求め、何度も行政へ申請に行きました。しかし、デモを先導する人は何らかの理由によって警察に逮捕されてしまいます。彼は執行猶予付きの有罪判決を受けました。出所した時「俺は8回も捕まったけれど、いつも労働者の人権を守るために訴えただけで、悪いことをしたわけじゃない」と言いました。

この時、私はマタイによる福音書25章にある、最後の審判の時にキリストが言った言葉、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ」と同じよう

に感じました。

このように釜ヶ崎に住んでいる労働者たちはキリストの教えを知らないにも関わらず、神が一番望んでいる「人を大切にしろ」ことを実行しているのです。

創立者聖マリ・ウージェニエーの言葉の中に「教育を通して社会を変革する」とあるように、生徒たち一人ひとりが社会に関心を持ち、やがて卒業した後に、すべての人が大切にされて生きられる社会の実現のために働ける人になってほしいと望んでいます。

釜ヶ崎で出会った人々からキリストは
知ることではなく生きることだと学びました



profile

Sr.マリア・コラレス

1936年、スペイン・マドリッド生まれ。敬虔なキリスト教徒の家庭で育ち、20歳でシスターとなる。キリスト教布教のため1959年に来日し、在日外国人が日本で安心して暮らせる環境を作るための支援活動を行っている。特に阪神淡路大震災のとき、そのような人たちの人権が守られるように奔走。現在、釜ヶ崎の人々が、だれでも安心して暮らせる社会になるための活動を行っている。



釜ヶ崎三角公園にて炊き出し

学院のwebサイトをリニューアルしました!



本学院のwebサイトをリニューアルいたしました。学院トップページの「お知らせ」では各校園などの単位で更新していた情報を、学院全体での更新としてとらえ、更新順に並ぶように致しました。



中学校高等学校の書道教育が平成24年度「がんばった学校支援事業」に指定され、書道室をリニューアルしました!



大阪府教育委員会では、昨年度より質の高い教育成果を生むことを目的に「がんばった学校支援事業(高等学校対象)」と称して、府内にある全日制及び定時制の高等学校の中で全国的に顕著な成果を挙げた学校、優れた取り組みを行っている学校を支援しています。平成24年度には本校の書道教育が評価され、同支援事業に選定されました。

これに伴い、本校では書道室内の備品などをリニューアル。新しく電子黒板や流し台、椅子、ラックなどが整備されました。



創立当初より本校の書道は、心を落ち着かせて集中力を養い、伝統文化に理解を深めるとともに、創造的な活動を通して、感性を磨き、個性豊かな表現をめざして学習しています。

毎年出品を続けている「全国書初め作品展覧会」「全国硬筆作品展覧会」では、中学校高等学校とも上位入賞し、学校としての団体賞もいただいています。「がんばった学校支援事業」は、これらの実績が認められたもので、学習環境をより良くすることができたのは、卒業生・在校生の活躍のたまものとと言えるでしょう。

リニューアルされた書道室の大きな特徴は、まず道具が一新されたこと。下敷きも広くなり、今後、大きな作品制作に取り組みやすくなりました。

生徒からは「イスの座り心地がよくなり、より姿勢を正して書け、練習もはかどります」「道具類を洗う流し台もきれいになり、気持ちがいいです」と大好評。部屋の照明も明るくなり、新しい教室ですますます作品に磨きをかけてくれることでしょう。

ピカピカの設備や道具に囲まれて書道の時間がより楽しみになった!